

令和 8 年度高齢者見守り相談窓口設置事業実施計画書

実態把握訪問

対象者宅へアウトリーチを行うことで、認知症の方・独居高齢者等の困りごとを含めた生活課題を見出し、適切な支援へつなげることを目指す。

【目標】 アウトリーチにより地域高齢者の生活実態を把握し、困りごとに対して適切な支援に繋げる。孤立している、または孤立のリスクがある対象者の早期発見を図り、孤立予防、早期介入に向けた働きかけを行う。	評価指標値 訪問完了世帯 1000 世帯	実績
【実施方法】 永山 1 丁目、関戸 1～5 丁目、一ノ宮 1～3 丁目の訪問を実施する。訪問を通じて生活状況や困りごとの把握に努め、支援が必要な対象者については関係機関と連携しながら適切な支援につなげる。また、有事の際の相談先として周知を行い、安心して生活できる地域づくりを図る。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

来所・電話等による相談受付及び訪問

気軽に相談できる窓口として、市民のニーズ把握に努める。

【目標】 気軽に相談できる窓口として、地域住民に広く認知されることを目指す。	評価指標値 相談件数 240 件	実績
【実施方法】 実態把握訪問や地域活動の場において啓発活動を行うとともに、チラシ等の配布を通じて相談窓口の周知を図る。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

見守りネットワークの構築

対象者を地域で見守る・支えるためには、地域の様々な主体での見守りネットワークの構築が重要となっている。その核として、見守り相談窓口・地域包括支援センターが機能しているため、ネットワークの仕組みづくりや関係性の構築を図っていく。また、プレフレイル状態の高齢者をターゲットに、見守り登録者人数の増加を目指し、フレイル予防の啓発活動を行う。

【目標】 孤立している、または孤立リスクのある対象者に対して定期的な見守り活動が行われることで、孤立予防および早期介入につなげる。	評価指標値 見守り登録者 6人	実績
【実施方法】 実態把握訪問時や、見守りネットワーク機関との連携を通じて、孤立しがちな対象者の把握に努め、見守り登録につなげる。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

【目標】 見守り協力員の資質向上や活躍の場を増やすことで、担い手となる人材を育成し見守りネットワークの深化を図る。	評価指標値 研修の実施 2回	実績
【実施方法】 見守り協力員に対して研修を開催し、活動に役立つ知識を提供する。また、見守り登録者へのマッチングや訪問の形態を工夫するなどして協力員の活動の機会が増えるよう働きかける。		
【上半期振り返り】		
【下半期振り返り】		
【年間振り返り】		

【目標】 ネットワーク構築している地域資源を増やすことで、地域の緩やかな見守りの目を増やし、見守りネットワークの中核として機能する。	評価指標値 地域資源への訪問 50箇所 会議体への参加 10回	実績
【実施方法】 積極的に地域に出向き地域資源の把握に努める。自治会や管理組合、老人会や通いの場において、活動内容や課題、ニーズの聞き取りを行い、必要時に連絡が取り合える関係性の構築を図る。また、把握した情報はスプレッドシートに入力し関係者間で共有する。 地域の会議体等へ参加し、関係機関との連携強化を図る。		

